



唐津南 茶華道部
生け花で東京五輪表現

高校生による生け花の全国大会「Ikenobo 花の甲子園」の九州沖縄地区大会を3連覇し、全国大会に出場した3人が登場。生け花の魅力を伝え、花を生ける時の心掛けとして「花には命がある」「色や形をしっかりと見る」「どんな風に生けたいのか、どこに飾るのか、誰に見せるのかによって生け方が違う」と説明。大会では、45分間で1人ずつ計3作品を生け発表することや、競技開始まで花材は非公開などのルールを説明した。

8



学校の枠越え活躍 個性豊かに



【主催】CHEM佐賀実行委員会
【共催】佐賀大学全学教育機構
【特別協賛】学映システム
【協力】佐賀新聞社・C-REVO in SAGA・佐賀大学クリエイティブラーニングセンター
【参加校】有田工業高校・唐津南高校・佐賀工業高校・佐賀西高校・佐賀東高校・致遠館高校・早稲田佐賀高校・総合文化祭実行委員・広尾学園高校(ゲスト)

高校生が日々の活動や成果などをプレゼンテーションする「CHEM(ケム)佐賀8」が2月、佐賀市の佐賀大学本庄キャンパスであった。今年で8回目。芸術・文化活動やプレゼンテーション大会などで高く評価された県内7校の8組に加え、第43回全国高校総合文化祭(2019さが総文)の実行委員や、生徒自らICTルームを運営する東京・広尾学園の高橋美帆さんらも参加。発表の他、パネル討議でも互いに意見を交わした。

■CHEM佐賀
CHEMは「クリエイティブ・ハイスクール・エヴァンジェリスト・ミーティング」の略。佐賀大学などで行われる実行委員会主催。高校生がプレゼンテーションや実演を通じ、情報共有や互いの活動を活性化させる「化学反応(ケミストリー)」に期待する備えで、小中学生の進路決定のきっかけにしようとの目的に2012年から開かれていた。



有田工 デザセンチーム
高校生の「休み方改革」提案

高校生が社会問題の解決策を考える「全国高校デザイン選手権(デザセン)」で昨年、優勝したデザイン科の3人が登場。「休んでもいい」「休まない夢のような制度の提案」として、デザセンで披露した「高校生のための休み方改革」を発表した。



早稲田佐賀 高山凱さん
「幅」のある作品へのこだわり

NHK杯全国高校放送コンテストで、制作テレビドラマ部門の優秀賞(第3位)に輝いた自身の作品「delete(デリート)」を紹介。こだわりのポイントと表現を一つ一つ詳しく説明した。



佐賀工 パラスポーツ応援隊
「積極的に触れて」選手の思い伝え

障害者スポーツについて、競技動画も交えながら、その迫力や身近で活躍するアスリートたちの思いを伝えた。



唐津南 虹の松原研究室
土産品の開発でPR

虹の松原研究室は虹の松原の「保全活動の推進」「文化・伝統をPRし未来に伝える」の二つのコンセプトで活動している。中学生から参加している2人は、全国総文祭に向けて土産品の開発に着手した課程をプレゼンテーションした。



佐賀東 演劇部
全国30カ所での活動を披露

「You Changed My World.」が私の世界を変えてくれた。合言葉に、年間12作品、全国約30カ所で行ってきた。作品のテーマは明治維新や命、平和のほか、社会問題を取り上げた演劇などもさまざま。



広尾学園(東京都)高橋美帆さん(特別ゲスト)
ICTで主体的な学びを

高校1年生の高橋さんは「つくりながら学ぶ。ICTから生まれる主体的な学び」をテーマにプレゼンテーションした。



致遠館 北村菜々さん
核兵器廃絶と平和の実現を

北村さんは昨年5月、第21代高校生平和大使として活動を始めた。「微力だけれど無力じゃない」のスローガンを身に着けて、さが総文マスコットの「あさぎちゃん」と登場した。



総文祭実行委員
「佐賀から発信」総文祭PR

第43回全国高校総合文化祭の生徒実行委員は、総文祭の青いTシャツを身につけて、さが総文マスコットの「あさぎちゃん」と登場し、映像とともに総文祭について紹介した。

こどもの夢をお手伝いします
Doctor, Scientist, System Engineer

新時代を担う子どもたちに最適な教育環境を

教育ICTソリューション
教育機器ソリューション
ICT活用サポート

株式会社 学映システム
Gakuei System
http://www.gakuei.co.jp

佐賀西 サイエンス部
5分野の研究成果を発表

サイエンス部の発表の様子

サイエンス部は、物理、科学、地学、生物、1年生の5班に分かれて活動している。この日は「エネルギー問題の解決」「フレキシブルな食生活」「宇宙の神秘」など、各々が研究を重ねてきた成果を発表した。

CHEMUNICATION
思い思いの意見、質問で交流

登壇した各グループの代表者がパネリストとなり、互いに意見を交わすCHEMUNICATION(コミュニケーション)。「活動で大切にしていること」「他チームへの質問」の二つをテーマに、思い思いの意見や質問を発表し合い、交流した。

質高の高山さんは唐津南茶華道部に「テーマを伝える上で大変な点」と尋ね、同部は「生けた後でテーマが決まることもある」と回答。佐賀東高演劇部は「人に気持ちを伝える工夫」について問われ、「まず自分たちが役柄を理解する。幅広い年齢層に上演する時は台詞をゆっくり言うなど工夫している」と答えた。